

はじめに

近年、わが国の国際的諸活動の進展に伴い、多くの日本人がその子どもを海外に帯同している中、異なる気候・風土の環境下における健康管理が重視され、各自の渡航前の感染症予防など在外教育施設における健康安全対策の必要性が益々大きなものとなっています。

最近の新型インフルエンザ（A/H1N1）の流行に際して、少なからぬ数の在外教育施設において、学級閉鎖等を余技なくされ、中には児童生徒が日本へ一時帰国し、臨時休校する事態も発生しました。派遣教員やそのご家族が、感染・発病する事例も起こっています。

渡航先の国における感染症対策の必要性や健康安全の度合いは、現地の衛生状況や医療事情によっても大きく異なります。各在外教育施設では、現地の実情に応じて学校運営委員会や在外公館と緊密に連絡を取り、現地日本人会、保護者、現地関係機関などの協力を得つつ広く情報収集の手段を確保して、学校健康安全の体制を構築することが必要です。

本資料は、平成16年12月に作成した資料の改訂版として新しい情報を加え、在外教育施設における健康安全と感染症対策のさらなる充実を図ることを目的として、前回執筆者代表をお願いした大阪大学大学院人間科学研究科教授の中村安秀医学博士に再び中心となっただき、各分野の専門家の方々に、児童生徒・派遣教員の渡航前の感染症予防や日頃の学校健康安全の手法など広範にわたる事項についてご執筆いただいたものです。各日本人学校、補習授業校をはじめ、関係者の方々が、健康安全対策の一層の充実を活用していただくことを期待します。

平成22年3月

文部科学省初等中等教育局国際教育課長
中 井 一 浩